

# 西高創世記

二中から西高4万人の青春「百年の物語」より

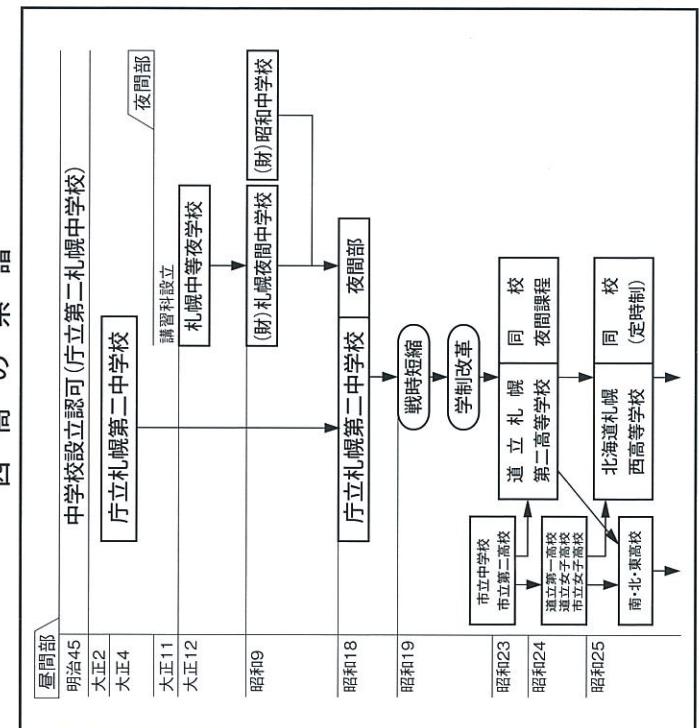
## 札幌に2つ目の北海道立男子校として誕生

当時、札幌には北海道立の男子校は札幌中学(日一中、現札幌南高)だけで、道内に4校しかなかった。札幌の人口が約9万人に膨れあがるとともに、子弟の教育熱も高まり、札幌中学の倍率が約4倍という狹き門となつたことから、明治45年(1912年)、道内5番目の県立男子校として、本校「北海道厅立第二札幌中学校」の開設が認可された。

## 札幌南高とは兄弟、北高・東高とも家族關係

明治45年(1912年)に、第二札幌中学(本校)と札幌中学(現札幌南高)が、1つの学校のようにまとまれて入学者選抜が行われるとともに、札幌中学の校舎を利用して授業がスタートした。1学年5クラスのうち、甲、丙、戊の3クラスが札幌中学、乙と丁の2クラスが本校にあてがわられた。すなわち、札幌中学21期生と第二札幌中学1期生は、同じ試験で入学し同じ校舎同じ先生の下で学ぶ兄弟関係であった。

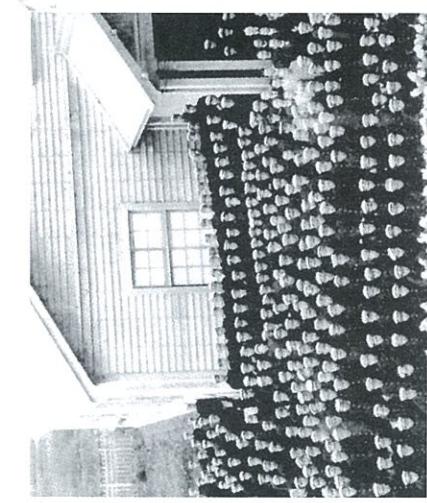
また、昭和25年(1950年)に、道立札幌第二高校(本校)と札幌第一高校(現札幌南高)、道立女子高(現札幌東高)、市立女子高(現札幌東高)の四校が、男女共学のために札幌東・西・南・北高に再編された。在校生は各校に強制的に移動させられ、級友と泣く泣く別れた。生徒は、移動しても前の学校が忘れられず、東西南北は家族のような関係と言える。



## たつた三ヶ月でも好きになれるのが西高

初代校舎が、昭和35年(1960年)に出火した。駆けつけた教師・生徒が立ち尽くす中、札幌市の消防車全25台が出動し消火に当たつものの、大半を焼失した。教職員・生徒に悲壮感漂う中、一年の女生徒二人が、焼け跡を果然として歩いているとき、小さなチヨークを見付け拾つた。一人が、黒ずんだ廊下の外壁に「西校」と書いた。もう一人の生徒が、ほんの少し前に、学校の横を通つた他校生が「西高もなくなつたなあ」と言つていたのを思い出し、迷わず「消えず!」と続けた。「たつた三ヶ月の西高生でも、こんなに西高が好きなの、という思いをようやく誰かに伝えられたような気がした」と言う。この落書きは、西高生の母校を思う強い気持ちの表れであり、新聞に掲載された。

## 全国屈指の学校を目指して創立



初代校長善波功は、本校を創立するにあたり、北海道の小天地を目標にするのではなく、全国屈指の学校を目指していた。その結果、本校は北海道における模範校となり、当時、道庁ではどこの学校を視察したらよいかと問われると、すぐ二中ど答えるようになっていた。

善波は、礼節を重んじ生徒に徹底的にたたき込んだ。規律はかなり厳しく、特に服装には厳格であった。運刻も厳禁である。しかも始業10分前に校門が閉じられた。男女交際など考えられない時代であるため、府立高等女学校(現札幌北高)の寄宿舎のあった北側は通行禁止となつており、生徒は厳格に従つた。このように、善波の指導の下、二中生徒は礼儀正しく身だしなみがよかつたため、世間から「北海道の学習院」と呼ばれるようになつていた。

### ■校訓

「自由」とは、真理と正義を追求し、人格の完成をめざすための基本前提。「自律」とは、その自由を支える精神。「歎智」とは、創造力の基盤となる高い知性。

そして、「創造」とは人類の平和と繁栄を希求し、豊かな文化をつくりあげる力。シンプルな4つの単語に深い大きな意味を込めた西高の校訓は、先輩たちから脈々と受け継がれています。



### ■西高実行精神

西高生なら誰もが知っている合い言葉。これに「やれなくともやる」を付け加えて、叱咤激励する先生もいます。

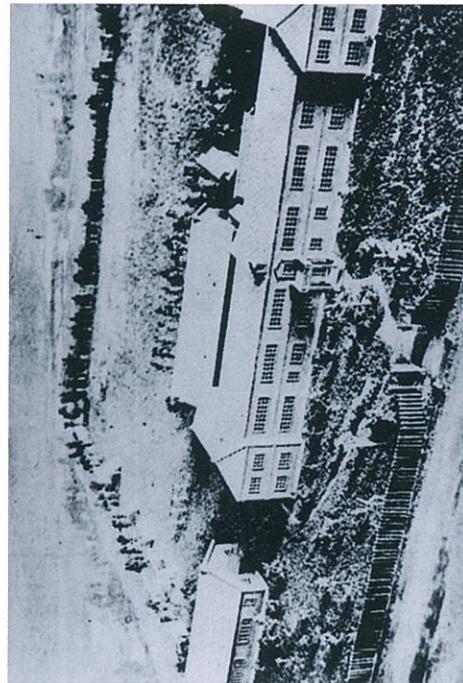
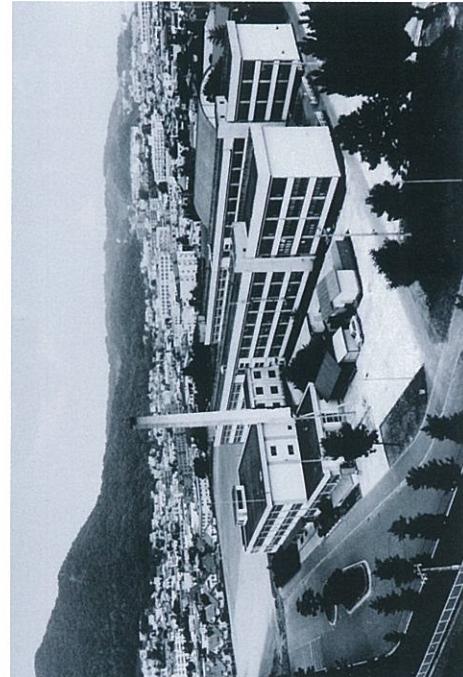
## 西高を支援する5つの組織

### ①西高PTA・②西高後援会

PTAは生徒の学校、家庭、社会生活の改善と向上を目的に、保護者と職員により組織。後援会は西高の保護者と賛助会員による組織。いずれも教育活動の充実に寄与しています。

### ④一般財団法人 札幌西高会

西高の卒業生とPTAの役員らが、理事や評議員を務める西高会。育英奨学金をはじめ、海外研修補助や学校花壇整備、皆勤賞記念品など教育活動への支援を行っています。



### ③輔仁会 (ほじんかい)

卒業生等在学した者と、名譽会員の教職員で組織する同窓会です。会員のネットワーク構築と、西高の発展に寄与することを目的にしています。

### ⑤西高振興会 (西高サポートクラブ)

PTA、西高卒業生の有志による組織。「西高サポートカード」を発行し、その手数料を現役西高生の部活動等の助成にあてています。